

学校教育の諸問題と可能性を求めて

# 脳の発達と可塑性

最近の脳科学は、子どもの脳がどのように形成され、発達し、なぜ高い適応能力や学習能力を備えているのか、その仕組みをかなり明らかにしてきました。本講演では、この発達脳の可塑性について、以下の点を中心にお話しします。

1. 発達脳構成要素のゆとり、脳には多数の神経細胞が存在し、各細胞は多くのシナプスで他の細胞と繋がり、複雑な神経回路網を作っているが、これら脳の構成要素は、出生直後は成人よりはるかに多く、また過剰なシナプス同士でよく使うものが他を追い落とすといった競合があり、その結果神経回路網は改変或いは精緻化される。
2.  脳機能発達における感受性期の存在。脳の特定領域の機能は感受性期（臨界期とも云う）と呼ばれる生後発達の一定の時期に変わり易く、その時期を過ぎると変わりにくくなる。
3. 感受性期における可塑性の仕組み、神経回路が変わる仕組みとして、興奮を抑える抑制系や神経栄養因子などの役割が重要とされている。

**日時** 平成21年 8月1日(土) 14:30～16:00 (受付/14:00～)

**ゲストスピーカー**

**津本 忠治** (理化学研究所脳科学総合研究センター・シニアチームリーダー)

**場所** キャンパス・イノベーションセンター 大阪市北区中之島 3階 多目的スペース2

**参加対象**

学校教育関係者 研究者, 大学院生, 学校教員等 参加費は無料です。

**申込方法**

「フォーラム申込み」と標題を付けて、次の事項を記入の上、Eメール又はFAXでお申込み下さい。

・氏名(フリガナ) ・年齢 ・性別 ・職業 ・連絡先

電話番号・ファクス番号・メールアドレス等連絡がとりやすいものをお知らせください。

**申込先・問合せ先**

**兵庫教育大学・連合大学院事務室**

e-mail: office-rendai-r@hyogo-u.ac.jp  
tel: 0795-44-2068 fax: 0795-44-2269

※申込者数が定員に達した段階で、申込み受付を終了いたします。

詳しくは

<http://www.program.jgssse.jp/event/2009-1>



兵庫教育大学



上越教育大学



岡山大学



鳴門教育大学